

社会科学学習指導案

日 時 平成21年9月11日(金) 5校時
場 所 3年 組教室
授業学級 盛岡市立仙北中学校 3年 組
(男子 名、女子 名、計 名)
授 業 者 教諭 小 井 田 正

1 単元名 第3章 現代の民主政治と社会 第2節 国の政治のしくみ

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、学習指導要領の「公民的分野、2 内容、(3) 現代の民主政治とこれからの社会、イ 民主政治と政治参加」に基づくものである。「国の政治のしくみ」は、前小単元「現代の民主政治」で学んだ民主政治の基盤となる要素(代議制・多数決の原理・世論・政党など)の学習をふまえ、国政レベルの三権(立法・行政・司法)の役割とその相互関係を国民の立場から学習するものである。国家の統治機構の基本原理は三権分立である。その目的は、統治行為の基本要素である立法・行政・司法を分離し、相互に抑制と均衡を図ることにより、国民の自由や権利を守ることである。しかしながら、「三権の独立」は必ずしも絶対的な要素ではなく、各国の統治機構は、歴史的な政治状況に基づきつつ、さまざまな形態に発展してきた。日本の場合、議院内閣制により立法と行政の距離が近く、また最高裁判所が違憲審査の終審裁判所として位置づけられ、現代憲法の特色の一つである「司法国家的性格」を有している。一方、政治機構全体が抱える現代的課題として、社会の急速な変化・発展に伴う「行政権の肥大化現象」を挙げることができる。現代社会においては、福祉や環境等の問題をはじめとして、社会に対する国家の広汎かつ積極的な介入が要請されるため、行政の職務範囲が飛躍的に増大する。その結果、行政権が肥大化する上に、法律を媒介とした立法による行政への監視作用が弱まるため、その統制をどのように図るかが重要な問題としてクローズアップされている点などを考えさせたい。

(2) 生徒について

本学級は、NRTの社会科学の結果を見ると、男子はオーバーアチーバの生徒がおよそ半数に及ぶ。定期テストでは平均点の男女差はあまり大きくない。ほとんどの生徒が普段の授業における態度はよく、集中して授業を聞いている。また、授業の最初に、不定期に行う口頭による一問一答の問題に積極的に取り組む姿勢が見られる。しかし、生徒自身が課題をじっくり考えることは苦手であり今後多くの練習が必要である。生徒自身がじっくりと考えることに取り組ませるために、「学習のきまり十箇条」では「5私語をしないで話をよく聞く」「8大きな声ではっきりと発言する」に重点を置いている。

(3) 指導について

① 「教材とのかかわらせ方」について

今回の衆議院議員総選挙やその後の組閣について新聞資料を使い、興味・関心を持たせるとともに、政治は国会と内閣だけで行われているのではなく、国民の意見が大きく影響すること(国民主権の原理が生かされていること)にも気づかせたい。

② 「友達とのかかわらせ方」について

ペア学習を通じて、新聞記事やその他の資料を見ながら具体的な話し合いの場面の設定から、国民の生活をよりよくするために行政が仕事をしていることをおさえさせたい。

3 単元の指導目標

- (1) 身近な話題や事例などを手がかりとしながら、国会・内閣・裁判所のしくみや役割などに関心を持たせ、見学や調査活動を含めた学習活動を中心に意欲的に学習させる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- (2) 法に基づき、人間を尊重し自由と権利を保障する民主的な政治のあり方と課題について、地域住民や主権者のさまざまな立場から多面的・多角的に考察させる。(社会的な思考・判断)
- (3) 新聞記事やインターネットなどを活用して、国会・内閣・裁判所のしくみや役割などを調べさせる。また、教科書の図などから三権の抑制と均衡の関係を読み取るとともに、三権分立が国民の政治参加と深くかかわっていることに気づかせる。(資料活用の技能・表現)
- (4) 国会・内閣・裁判所の地位や役割、相互関係のあらましを理解させる。また、具体的な事例を通して、三権分立の原則によって国民の自由や権利が守られているとともに、三権そのものに対して国民の政治参加の機会が保障されていることに気づかせる。(社会的事象についての知識・理解)

4 単元の指導計画(7時間)

- (1) 議会制民主主義と国会・・・・・・・・・・1時間
- (2) 国会のはたらき・・・・・・・・・・1時間
- (3) 行政と内閣・・・・・・・・・・1時間(本時)
- (4) 現代の行政・・・・・・・・・・1時間
- (5) 法を守る裁判所・・・・・・・・・・1時間
- (6) 裁判所の種類と人権・・・・・・・・・・1時間
- (7) 三権の抑制と均衡・・・・・・・・・・1時間

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 内閣の地位と権限について理解する。(社会的事象についての知識・理解)
- ② 議院内閣制の意義としくみについて、具体的な場面を通してまとめることができる。(資料活用の技能・表現)

(2) 本時の評価規準と具体的評価規準

	A 十分満足できる	B 概ね満足できる	C 努力を要する生徒への手だて
社会的事象についての知識理解	新聞記事などを活用して、内閣の地位と権限、仕事内容について調べ、理解している。	新聞記事などを活用して、内閣の地位と権限、仕事内容について、ワークシートにまとめ、理解している。	教科書にある内閣の地位と権限をマークさせ、ノートに記入させる。
資料活用の技能・表現	議院内閣制の意義としくみについて、具体的な事例を通して調べ、表現している。	議院内閣制の意義としくみについて、ワークシートにまとめている。	教科書を見て議院内閣制のあらましをワークシートにまとめさせる。

(3) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 7分	1 既習の振り返り 2 学習課題の設定	1 今回の衆議院の解散から組閣までの流れを、新聞記事を使いながら確認する。また、組閣の記事から気づいたことについてペアで話し合い、発表する。 ・首相をはじめ大臣は国会議員である 2 学習課題の確認 国会と内閣の関係はどのようになっているのだろう	1 タイムリーな事象について関心を持たせ、内閣についての関心を持たせる程度にする。
展開 38分	3 課題解決の見通し 4 課題の追求 5 課題のまとめ	3 国会と内閣の関係を予想する。 ワークシートに個人の考えをまとめ、ペアで話し合い、まとめる。 4 国会と内閣の仕事を比較してみる。 ・内閣組織の基本・大臣の資格を調べる。 ・首相の仕事や権限について調べる。 ・ワークシートの記述内容から内閣の仕事を分類する。 ・国会と内閣の関係をまとめ、ペアで話し合う。 5 議院内閣制についてまとめる。 「内閣が国会の信任のもとに成立し、国会に対して連帯して責任を負うという関係」	3 組閣の記事などを使ってみる。 4 新聞や資料集などを活用する。 ・政治は国会と内閣だけで行われているのではなく、国民の意見が大きく左右することに注目させる。 ◎ (知識・理解) 内閣の地位と権限について理解しているか。 (ワークシート) ◎ (技能・表現) 議院内閣制の意義としくみについて、具体的な場面を通してまとめることができたか。 (ワークシート)
終末 5分	6 学習の振り返り 7 次時予告	6 振り返りカードを記入する。 7 次時の学習の確認をする	6 ワークシートを回収する。

(4) 評価

- ① 内閣の地位と権限について理解しているか。(社会的事象についての知識・理解)
- ② 議院内閣制の意義としくみについて、具体的な場面を通してまとめることができたか。(資料活用の技能・表現)